令和３年度第３回伊賀市スポーツ推進審議会会議録

日時：令和３年 12 月 21 日（火）午後２時～午後３時３５分
場所：市役所本庁舎　５階５０１会議室
出席者：松嵜敏之、田中栄一、宮田久一、粟野仁博、山下明子、山本志賀子、辻喜嗣、
　　山本いずみ、中森正一
　　藤山企画振興部長、風隼企画振興部次長、岡本スポーツ振興課長、福井主幹、宮田

事項１　あいさつ
　　２　協議事項
　　伊賀市スポーツ推進計画（案）について
　　３　その他

１　あいさつ
・スポーツ振興課宮田司会進行
・松嵜会長あいさつ
・資料の確認
・出席委員数の確認を行い会議の成立を報告

２　協議事項
（会長）
　それでは事項書２の伊賀市スポーツ推進計画（案）について事務局から説明をお願いします。

（事務局）
　事務局説明。

（会長）
　全般について説明をいただきました。内容につきましてご意見またご質問ありましたら一括でいただきたいと思います。いかがでしょうか。

（委員）
　スポーツ人口の低下というのは市として主な原因というのはどのようにお考えでしょうか。説明の中には何となくはあるのですが。一言で説明いただくとすれば。

（事務局）
　子どもについては、少子高齢化のなかでスポーツ少年団の活動でもなかなかチームが組めないなどチーム数自体が減少しています。昔でしたら小学校単位でスポーツ少年団のチームがありましたが、今は各学校単位にないということからスポーツを始めるきっかけが子ども達にはないのかなと考えます。
　それから成人については、アンケート結果からはウォーキングとかジョギングとか個人競技につ

いては一定数競技人口が増えている部分もありますが、団体競技が減ってきているのが現状です。

（委員）
　自分が思っているのは、裾野が全然ないからだと思っています。先ほどの説明にありました各小中学校区にスポーツ少年団があって、旧上野市だけで言うと児童福祉会が全部子どもを掌握して夏は野球、冬はサッカー、卓球など必ずみんなが参加するようなものをしています。そうすると中学校へ入った段階で野球をしようか、サッカーをしようか、そういう選択肢の中でやっぱりやった経験のあるものを選んでいく訳ですね。今はどうかというと先ほどの説明にあったように、スポーツ少年団は任意の参加です。私が小学校に勤めていた中で思うのは、ほとんど家に帰って、塾が忙しいからというのが載っていますが、塾が忙しいのではなく何にもしていない子がものすごく多いです。だから地域の中でのスポーツ活動が全くなされてない。一部、サッカーや陸上など優秀な選手を育成する団体はあっても、地域の中で、何もすることがないからサッカーしようかな野球しようかなという子ども達を救っていくところがひとつもない状況の中で、このままいくと例えば伊賀市のスポーツフェスティバルを実際にやったとします。ソフトボールのチームを作ろうとしたときに、若い人たちは野球やソフトボールはほとんどしていない訳ですよね。そうするとチームが組めないというのが当たり前の話で、バレーボールにしてもそうです。今まで子ども達のチームは各地域にありました。うちの娘も入っていましたが、今ふたを開けてみると、各地域のなかでバレーボールをやっているというのはほとんどない、合体してもチームが組めないような状況です。中学校へ行ってもバレー部はチームがかつかつで廃部になるところも出てきている、やっぱり裾野の部分が切れてしまっているのをどういう風にして考えていくのかがもう少し強く出てこないと、このまま見るスポーツと私たちのようなレクリエーションでちょっと何かを楽しんでみようかなというほんとにそういう体を動かすためのスポーツだけになって、競技スポーツをみんなで楽しむという経験がほとんど為されないのではないかなという危惧があり質問させていただきました。

（委員）
　今、少子高齢化ということですが子どもの数は確かに減っています。しかし、子どもに運動・遊びをさせる親が少なくなっているということも考えられるのではないかと思います。少なくなっているのは確かなのですが外で遊んでいる子ども、先日の日曜日ですが昔遊びという形で事業をやらせていただきましたが、縄跳びをしたことのない子どもや鬼ごっこをしたことのない子どもがたくさんいます。なぜかというと地域でそういうことをやらないのが現状ではないかと思うのでその辺も少し取り込んでいただきたいですが。外で遊ぶ、友達と遊ぶ、それをさせないのが今の親であると思います。親の教育も必要ではないかと思います。

（委員）
　昔は、ガキ大将がいてその親分についてソフトボールしたりバレーボールをしたりとか高跳びしたりそういうことを私たちは昔していたと思います。しかし生活習慣が変わりそういうことは全然ない。今私もスポ少を拝見していて感じることは野球・ソフト・バレー・サッカー、それ以外にダンス・BMX 他にもｅスポーツとかそういうものもできています。私たちの時代になかった昔では趣味と言っていたものがスポーツに入ってきている感じもします。だから子ども達の選択肢はたくさんあるが体を動かさずどうしても楽な方へ逃げて行っているのではないかなという気がします。人が減

っているので私も家庭訪問をして何とか人材確保をしようと思っていますが、一番難しいのは、子どもはするって言いますが親がなかなかうんと言ってくれないのが実態です。

（会長）
　親はなぜうんと言わないのですか。なぜ反対するのですか。

（委員）
　多少はスポ少のお手伝いをしてもらうこともあります。

（会長）
　親が係をしなければならないと思っているわけですね。

（委員）
　子どもの送迎もありますし、お弁当も作らなければならないし。そういうことに親は嫌気を感じています。

（委員）
　おっしゃる通りで、私は中瀬地域なのですが地区でバレーボール大会とかソフトボール大会とかある意味危険なケガをすると危ないので、カローリングやボッチャとか最近出てきましたが親自体が危険を伴うものはやめておこうという傾向にあります。中瀬地域だけかもわかりませんがそういうことになっています。だから子どももそういうことを見ているからどうしてもそういうスポーツをやりたい気持ちにならない。私は５年前から中瀬小学校でグラウンドゴルフの講師をしていますが、今まで体育系のクラブがありませんでした。文科系のものばかりで。子どもが中瀬には９７、８人なのですが５１人対象で１年間ひと月にやり終えるのですが、非常に子ども達は喜んでくれています。学校がやめるといわない限り私が元気な間は続けさせていただきますということで約束しています。他の委員もおっしゃっていますが少なくなっているし、簡単に言うと怖がっているというか危険を伴うスポーツはやめておこうと、送迎が面倒くさい、親が大変だというその辺が改善されない限りなかなか増えていかないのではないかと思います。

（会長）
　昔は親も一緒に楽しみましたよね。

（委員）
　やっぱり親子でふれあいの場がなくなってきています。何が原因かはわかりませんが親子で楽しんでいることが少なくなっています。

（委員）
　子どもは陸上とサッカーは熱心にやられていると思います。だからそれはありがたいですけども。

（委員）
　一流のサッカー選手でもボール投げができない子もいます。日本を代表する選手でも野球やソフトのボールを投げさせても投げられない子もいます。やはりその競技に特化している、昔のようにいろんな種目をやって自分の好きなものを選べる機会が少なくなっている。小さな頃から、その競技ばかりやっているそんな子が増えているように思う。

（会長）
　これはわかりませんが、小学校は地域性がすごくあるので昔から小学校単位のコミュニティというかエリアで動いていたのが、合併で２つも３つも一緒になると小学校単位で動けなくなってきているのではないかという気がします。子どもはひとつの学校へ来ますがそれをとりまく子ども達の地域が、３つがひとつの地域になるかといってもそうではなく地域は地域で動いていますから。その中で福祉会のような活動をしようと思っても、３つの学校が一緒になったらその中の３つの地域の誰かひとりが世話をしてくれたらできるのかもわかりませんが、エリアが広くなればなかなか親の顔も知らないし、指導もやりにくいのかな。昔だと、地域で大体親の顔も分かっているし。

（委員）
　今は福祉会というのはあるのですか。

（会長）
　もうなくなっています。

（会長）
　何かやっていると思いますが。スポーツ大会はありませんよね。野球とソフト、女の子はソフトで男の子は野球だったと思います。だんだんチームが組めなくなっていますよね。

（委員）
　昔は朝早くから一生懸命していましたが。

（会長）
　合併して小学校でひとつのチームをつくってというのはなかなか難しいのかな。スポ少はどうですか。地域で合併した学校って出ていますか。

（委員）
　ひとつになっているところもあるし、チーム数がだんだんと減ってくるのでなんとか頑張って継続しているところもあるしいろいろです。クラブチームも出来てきています。する人口が減ってきているということですが、チーム数は昔の半分になっています。

（委員）
　この資料に指導者の育成とかありましたよね。昔の体育指導員の時にいろいろとお世話になりましたが、最近の体育指導員というのはどうなっているのですかね。あるのですか。

（会長）
　今はスポーツ推進委員にかわっています。

（委員）
　そういう機会にボッチャとかいろいろ新しいスポーツをやっていこうという講習があるのですよね。今もやっておられますか。

（委員）
　やっています。今代表をしていますが、今年はコロナの影響でできていませんが今まではボッチャの講習会等をし、それを地域展開してもらうために取り組んだのですが各地域のスポーツ推進委員が集まってそれを各地域に持ち帰ってもらってということを考えたのですが、うまく展開しなかったこともあり改めて検討している段階です。

（委員）
　特にコロナで今の時期は大変ですが、これからどうしていこうかということですからやはり指導者の育成ということで各地区住民自治協議会もあるわけで、同じ人ばかりではなく複数人数を確保していただきたい。なかなかひとりで私がやるということも難しい、先ほど言ったように学校の先生には言っていますが私が倒れて次の人がいなくなるかわからないよということを言っています。なかなか自ら申し出てやりますという人はこの時代になかなかいないです。だからやはりそういう指導というか講習をしていただいてスポーツ振興課を中心にお願いしたいと思います。

（委員）
　私が先ほど言わせていただいたのはこの計画に対してではなく、やはりこの計画を推進していくうえで市の方でもいいですしスポーツ推進委員協議会の方でもいいのですが、何かいっぱい石を投げていかないといけないかなと思っています。例えば何かひとつやれば波紋のように広がっていくのかなという気がします。スポーツフェスティバルの中で今カローリングをやっています。あれはスポーツ推進委員の中から始まりました。私はレクリェーション協会の事業と重ねてやっていて、今は半々で協力してやっていますがあれも最初は何もないところから始まり、この競技を追加したために広がっていったものです。子どものレベルでもう少し何かあればなと思います。昔一番印象深かったのは泳げるようになろうかなづちっ子水泳教室というのを毎年夏にやっていました。募集するとたくさん子どもが集まりました。泳ぎたいけど泳げない子どもがたくさんいて、４日間ぐらい当時の水泳協会の人たちが指導してくれてなんとか泳げるようになったよと喜んで帰っていく、また次の年もその子が来て去年泳げたから今年ももう少し泳げるようになりたいと言っていました。学校の水泳とは違って、教えてもらって伸びたという思いを持つ子が増えていけばやっぱりスポーツの裾野が広がっていくのではないか、そういう何かしらの機会を作っていく、もうひとつは先ほどの福祉会の話ですが女子のサッカーの大会もやっていました。女子の大会をやってそこをやっていて良かったのはプリマハムのグッズがもらえたり、くノ一のジュニアチームに勧誘されたり。子ども達は喜んでサッカーをしていました。今は女の子の選択肢の中にサッカーというのはないのですよね、ほんとに一部のくノ一さんにみえるぐらいで当時、女の子は喜んでしていました。何かやはり意思があって波紋が増えていく中で広がりがありそうな気がするのでそういう機会を増やしてい

くような努力をこの推進計画から進めてもらいたいなという思いです。

（委員）
　今でもいろいろな課がスポーツ、ボッチャだけではなく体操とかノルディックウォーキングや他にもしてくれていますが、ノルディックだったら定期的にしてくれているから継続している場合もあります。例えばボッチャもスポーツフェスティバルの内容を考えていくうえで体験だけで終わらずに継続しようと思ったらそれはある意味ピアノだったら発表会があるように、単発で終わらずに継続して体験したことが生かせる場があればいいのかなと思っています。自分の地域で継続して、してくれているのは高齢な方はグラウンドゴルフを週１回集まってしています。経験したことを老人会の方が引き継いでくれているというのもありますが、毎年１１月の大会に向けて定期的に集まってできると思うので、やはり私たちはいろんなスポーツ、やりやすいスポーツから本格的なスポーツもあるだろうし、場の設定をしていくとともに伊賀市の中での今あるフェスティバルにつながるようなことができたらチーム集めも大変というのもあるから、提供した中でスポーツフェスティバルにつながるような体験ができたらいいなという風に見ています。それとささえる側の立場ですが今コロナ禍で初めて委員になった人たちの残念な意見もありますが、子どもでもささえる側にしろやって良かったとか、私も初めの頃は推薦してもらってなったけどわからないしだんだん大会とか一緒にしていくと、同じ仲間の方とのつながりができたり参加してくれた方が喜んでくれたりすると次の意欲につながるのだけれども、今年度はそういう機会もないまま経ったのかなと思うところがあります。あとこのささえるところで、もちろん基本的にこの方たちには来てほしいとかスポーツ推進委員や地域の役員は当たり前ですが、国体のボランティア、例えば国体だとすごく長い期間募集をしてくれていました。中止にはなりましたがそのボランティアとして希望したという数は、目標の数に到達していたのか、行事によってとか日時とか内容も違うと思うのですが、どれくらいボランティアとして希望されていたのかなと少し参考までに教えてください。

（事務局）
　今資料を持っていませんが最終登録されたのは１００人くらいでした。もともと想定していたのは３００人以上でした。２年くらい前から取り組みもしていました。イベントごとにチラシを配布したりしました。１００人の方に講習会に集まっていただき国体期間中、一生懸命やってあげようということで本当にありがたかったと思っています。

（委員）
　これからささえる側として参考にさせていただきます。資料に戻りまして、まず１０ページの下から２行目の「支える」が漢字になっているのは何か特別な意味があるのか、１５ページの数値目標の成果目標の基準になる年がする・みる・ささえるそれぞれこの年に設定した理由は、１６ページから施策の実現のため関係組織を挙げてあるが上位が主となる組織なのかどうなのか、１８ページの子どもの体力向上の箇所ですがたくさん取り組むべきところは多いと思いますが、このアクティブチャイルドプログラム活動についてですが、私も存じ上げなかったのですが先日の市からの案内通知で初めて知りました、調べてみるとここ最近始まった事業です。伊賀市の取り組みの現状を教えていただきたい。続いて１９ページには、みるスポーツの普及・啓発②事業概要中に例としてスポーツ広報誌が２つありますがあまり回覧等では見た記憶がありません。市役所に配置しているものは

見ましたが今後スポーツ広報誌として力を入れていく部分なのでしょうか、前後しますが１２ページのスポーツ振興への期待の①健康づくりとしての箇所の運動実施頻度が高いほど健康や充実感がある人の割合が高くとありますが今回のアンケート結果からであれば、資料のアンケート結果との連動しているものなのかそれとも一般論であるのか、お聞きしたい。

（会長）
６点ほどあったのでどれからでもいいので事務局お願いします。

（事務局）
まず１５ページの成果目標の基準値の年度の違いですが、年度が揃うのが当然わかりやすいのですがスポーツフェスティバルについては令和２・３年度がコロナの影響で実施が出来ていない為令和元年が最新になります。くノ一さんの試合の関係ですが皇后杯は継続していますがリーグ戦は令和３年度はもう終了している為実績が出ていますので令和３年度が最新になります。施設の稼働率は、これはまだ令和３年度が現在進行形の為、最新が令和２年度となります。すべての項目について、最新のものとして考えています。それから関係組織の順番ですが、特に順番を意識して書いたものではなかったのですがいろいろ精査するなかで、追加組織があれば単純に足していっただけですので今はどれが優先かという考えで書いたものではないです。統一した書き方が望ましいと思いますので精査いたします。１８ページのアクティブチャイルドプログラム活動については課長から説明します。

（事務局）
アクティブチャイルドプログラム（ACP）は先週の日曜日に開催いたしました。この事業は県の事業であり三重県スポーツ協会所管のもと開催されました。今年度は府中スポーツクラブと NPO フューチャーズクラブの２者に受託していただきました。昨年度はスポーツ少年団で受けていただきました。昨年は聖火の展示に併せてゆめドームで実施したのでたくさんの方に参加いただき好評でした。今年は従来からの ACP 事業に加え大人の体力測定も実施したので親子で参加いただき大変楽しんでいただいておりました。実際現場で携わってくれた委員さんがいますので補足があればお願いいたします。

（委員）
ACP につきましては言われたように昨年度はスポーツ少年団で取り組んでくれました。国の補助事業であり今年は総合型地域スポーツクラブでの取り組みということで、三重県は伊勢市、伊賀市、名張市ですが伊賀地区という形で受託させていただきました。伊賀地区については府中スポーツクラブで受託させていただきました。親子での取り組みということで昔遊びを実施し国としては３～５年の期間をかけて普及したいと考えています。伊賀地区もあと３年を目途に実施したいと考えています。これは総合型だけではなく、先ほど言われたように上で旗を振っているだけではだめなので外堀から攻めるよう親を引っ張り込み一緒に楽しんでいただきたい思いがあります。先日はフューチャーズさんに頼んで大人の体力測定を一緒に取り組んでいただきました。もうひとつはストレッチを取り入れた健康体操を実施し誰でもが体を動かせるものを実施しました。難しいことはやめて、誰もがすぐに来て参加できるようなものを総合型としては考えており今後スポーツフェスティ

バルでの取り組みも考えています。

（事務局）
「支える」の文字ですが、鍵括弧の部分は全て平仮名が正しいですので漢字は間違いです。修正いたします。

（委員）
ACP 事業の関係組織に地域総合型クラブを追加していただけたらと思います。これは本来全ての団体が関わってくるものでありレクリエーション協会やスポ推にもご協力いただくことになります。どのスポーツやどの種目も一緒だと思いますがどれもがみんな関連してくると思います。

（委員）
スポーツ振興課の記載が必要なのか不明であるが、そもそもスポーツを広めていく課であるので、記載するのであれば全ての項目に関わってくるのではないのかと思うのですが。

（委員）
いろいろ詳細にわたって教えていただき学ばせていただきました。ありがとうございました。あと広報誌の部分は。

（会長）
広報誌の「スポーツ忍」はスポーツ協会が発行しているものです。２色刷りのもので年２回各戸配布しています。

（委員）
ここスポはどうですか。

（事務局）
ここスポは、スポーツ庁が所管しているプラットフォームの情報システムがあるのですが各自治体のスポーツ行事であるとかを掲載するものですがなかなか今は活用できていない状況です。今後の取り組みとしてできればいいなと考えています。

（委員）
ネットで検索してもスポーツ庁しか出てこなかったものでお聞きしました。

（委員）
今までの話の前段の話になりますが、そもそもスポーツ推進計画は何なんだと言うと当たり前の話ですが多分関係人口を増やすというのが答えだと思います。人口が減ってきます、スポーツに関わる人たちも減ってきます、だけれどもできる限りスポーツに関わる人を増やしていきながら健康づくり、強いては市民の健全な状態で資するためには関わる人を増やす。皆さんが先ほど議論されていた中で昔は良かったと私もそう思います。ガキ大将の話もわかります。じゃあ、昔と今と何が違

うのか。今の状況にあわせて施策を考えていかないと、例えば過去にいたガキ大将をつくりましょうというのは今無理な話です。どうしたらいいの、今、決定的に違うところは情報です。昔は情報の取り方が言えばワンウェイだったのですよね、ガキ大将が今日は野球やるぞと言えば野球をやる、けれどもそのガキ大将に付いていないと野球をやる情報を仕入れられない、だからみんなは聞き耳を立てていました。今日は野球、明日はサッカーらしいみたいな。しかし今は情報が多様化していていろいろなところから情報が入ってくる。オリンピックが今年行われました。BMX の話も出ましたが新たなスポーツを見る機会がどんどん増えてきています。例えば伊賀で BMX やスケートボードをやりましょうとなった時にまず買う場所がない、どうしても伊賀から出て行かないといけない。教室に行きたいとなっても伊賀市にはそのスポーツのメッカがない。情報を発信するところが伊賀以外のところから発信されている、その情報に頼ると結果として大阪でやっているけど大阪に行ってまではできないなという理由であきらめてしまう、それで田舎に対する不満が溜まってくる。つまり情報を発信することが伊賀からできていない。スポーツと言えばここという情報発信源があればライバルチームと喧嘩してあそこの情報は発信しないとかそういうものは抜きにして、伊賀市としてスポーツはこうだよという情報を発信する、つまり伊賀市民はポチッとそこだけクリックすると情報が見られるというものを作ってしまえばそこに集まるのではないか。もちろんそこにない情報は取りに行きます。それを取った人は大阪や名古屋に行くことは仕方がないことです。いま皆が必死に頑張ってばらばらに発信しているから何の効果もない、多分打ち上げ花火で終わってしまう。これをどうやって線にしていくのかというのを、このスポーツ推進計画に練り込む必要があるのではないのかなと私はそう思っています。もちろん指標とかもすごく大事なのですが例えばくノ一のホームゲームの入場者数が出ていますが、これはあくまでひとつのきっかけだと思います。ここからその人は次にどんな行動を起こすのか、そこまで踏まえたものを考えていかなければならないと思います。そのためには、情報媒体としてのスポーツコンソーシャルが欲しいしスポーツのメッカというのを整備していかないとならない。今パラスポーツはジェンダーがどんどん出てきていますし。今回３・５・１１・１７と SDGs の指標も入れていただきましたけれどもこの５番のジェンダーというのをどこで発揮するのか、どこでどういう形の目的に持っていって持続可能にするのというのがもう少し細かく落とし込まないとこの計画は大きな大きな計画ですので、ここに骨子がついてくるわけですよね、総論にはこうしていくのだという思いがもう少し入った方がいいと思います。私の答えはスポーツというのは市役所の掲示板でもいいのですがここを見たらスポーツがわかるものが欲しい。例えば６０歳以上の人はここを見てくださいでもいいですし、こんなスポーツをやりたいという申込書でもいいですし、いかに情報を地域内でとってもらえるかが地域活性化の原点だと私は思っています。今のこのご時世は。もちろんガキ大将文化が復活するかもしれないし、それはそれで田舎の特性で今後田舎が生き残っていくためのひとつの方策かもしれない、ただ今の現状に鑑みるとそういうところを作っていくべきかと思います。それに SDGs を絡めていくさらにもう１点が、今この計画を作るにあたって大事な視点が抜けていると思うのですが、アフターコロナということだと思うのですが。あまり入ってないですよね。今我々のサッカーにしてもいろんなスポーツにしても非接触がうたわれています。つまりリモートでいいではないか、集まってスポーツをすることが重要ではない時代になってきています。そこに対してのアプローチというのが大事かなと。例えばマラソンなんかでもリモートマラソンというのをやっていますよね、タイムだけ送れというものです。これも競技として成立しています。いかにアフターコロナに対応していくかということをこのスポーツ推進計画に入れておかないと会って集まってよーいドンで戦えだけの話では難しいのか

なと。特に支える方々は多分会って何かをする、出てきて何かをすることに少しナーバスになっている方々が今は多いと思います。そこに対してどういうフォローをしていくかというところが少し抜けているというかそういう視点が欲しいと思います。

（会長）
　だいぶ大きな問題だと思うのですが事務局いかがでしょうか。

（事務局）
　今おっしゃっていただいたように丁度昨日スポーツ庁から第３期スポーツ基本計画（中間案）が出てきました。その中にも委員がおっしゃっていただいたようにアフターコロナの関係で国としてもDXを使ってどうしていくとか、伊賀市もオンラインマラソンを実施しましたがバーチャルでやる部分とリアルでやる部分というのも種目ごとに考えていくことも示されていたりしますので、基本計画を参考にしながらそういう視点も考えていきたいなと思っています。

（委員）
　いい案が浮かぶまでは広報いがの例えば最終ページにスポーツ欄のようなものを作ってもらって、どこかには載っているのかもしれませんがスポーツの関係だけをわかりやくまとめて掲載するようなことはできないのか一度検討いただいてはどうか。

（委員）
　参考になるかどうかはわかりませんが、鹿児島県の奄美大島ですがご存じのように離島です。特にこれっていうスポーツもなければ海があり観光には非常にいいところなのですけれども、奄美大島が今やっているのは大島高校の野球部の新聞です。大島高校は今まで全くの無名だったのですがここ２，３年九州大会でも名前が出ていますしこの秋の九州大会では準優勝で、間違いなく春のセンバツには出てくると思うのですが。なぜかというと島民が大島高校の結果に熱狂しているわけです。選手ももちろん島内の子もいれば、島外からの子もいますが地域力が結束して急に盛り上がりました。非常に短期間でできたいい例だと思うのですが。その情報発信源はやっぱりお役所です。市役所が、大島高校１回戦勝ちました、点数を書くだけではなく例えば１番〇〇三振とかこういうことも書き出すとみんなが見ることになりました。いかに地域の情報を均一に出すか、そこに対して言葉悪いですが役所が賭けられるかどうかが勝負だと思うのです。大島高校はもちろん応援していただく選手も集まり努力もしました、その結果が九州で有力校になったということです。けれども見たら小さな奄美大島の、それこそ徳島の池田高校みたいなものです。そういう盛り上がり方も私はあるのだと思っています。何かに絞ってその情報は逐一出す、とことん出すということもいいかなと私は思います。
　今度伊賀白鳳高校の子も都大路を走りますがどれだけの市民が知っているのかなと、出て当たり前と思っている人もいるでしょうし、去年は出ていないことを細かく知っている人もいるでしょうし結果を見て伊賀白鳳強かったなって言うのではなく、頑張れ頑張れというところから垣根を越えてやれるようなことをしていくと、支える人も増えるでしょうし見る人も増えるでしょうしもちろんする人も増えると思います。それは地域力の醸成につながっていくと思います。

（会長）
　懸垂幕も今なかなか見えるところにないのでね。

（委員）
　うちの試合にしても今日はあそこで試合しているということをなかなか告知しづらい。例えば試合に勝ちましたというのもケーブルテレビさんと YOU さんは伝えてくれていますが、なかなかリアルタイムに発信が難しいです。

（会長）
　市役所も看板ありましたが。なかなかあれではね。周知するところまではね。

（委員）
　懸垂幕は本当にありがとうございました。しかしそこに至るまでの過程が皆さんが熱狂する部分ではないのかなという気はします。

（委員）
　いかに伝えるかですよね。今回の ACP についても取り組みが遅かったので伝えることがなかなかできなかったのが今回の反省点でもありますが、内容を全然知らない人が多いのです。ACP って何やねんということが伊賀市ではまだまだ伝わっていない。言われたように情報を早くそして的確に伝えることが大事だなと思います。今回行った事業について特に思いました。一部の団体がやるのではなく関係機関みんながやるということをもっと進めていかないといけないと思います。

（会長）
　くノ一の感謝祭に短時間ですが参加しましたが、くノ一の試合に行く一番のネックは駐車場だったと思います。今は旧の勤労者体育館の跡地が駐車場になっていますよね。私が行った時にはまだ何台か入れる余地があったのでもっと駐車場がありますよという宣伝をすればいいかなと思いました。

（委員）
　今回意外な発見があったのですが、今年コロナ禍でしたがうまくいった点が２つありまして、１つは幼稚園や保育園への巡回スクールですがいつもだと年１回だけなのですが、今年は定期的に行くようにしました。月２回必ず行くようにしていました。ボールを蹴ったことのない子やサッカーを知らない子もいますし、実際にやってみても全然興味を示さない子もいますがその子たちの親が来てくれること。２つ目が今年優勝したこともありましたが、近所の各自治協に声をかけに行ったら、ご高齢の方が応援に行きたいが行く術がないということでした。とある自治協がバス出したらみんなで一度応援に行こうかということでご高齢の方がたくさん来てくれました。するとその方々は応援しながら熱狂されていました。意外だと感じました。我々の情報伝達が間違っていたのだと、やはり地域の方と膝を突き合わせて話をしないといけないところと、言葉は悪いですが空中戦で真っ二つのところはいろいろ精査しながら、冒頭にも申し上げましたがいかに関係人口を増やすかということはいかに情報を伝達するかに特化するなと子どもの話と自治協の話と結果が出て思いまし

た。来年以降も積極的にやっていきたいです。情報を出すところをひとつ作ればどうかという話ですが、市役所で難しいのであればくノ一のものを使ってもらえれば結構ですので民間活用も取り入れて、伊賀のスポーツを取り込んでポチッといけば、今日はあそこで何かやっているというものが一発でわかるものがあれば動きやすいのかなと。試合会場の近辺で勧誘活動をしてもいいですし、スポーツコンソーシャルを一つ作るのもみる・する・ささえるという場所をつくり広がりを見せるには一番わかりやすいのではないかと思います。

（委員）
　根本のところをいろいろお話されている中で冊子の中身についてですが、５ページの余暇活動及びスポーツニーズの多様化のところにはボッチャなどのパラスポーツあるいはキンボールなど新たなルールやスタイルで行うニュースポーツと記載されていますが、１７ページでは障がい者のスポーツ活動のパラスポーツの普及のところにはボッチャとキンボールが並列されています。これでいいのですか。

（委員）
　確かにそのとおりですね。キンボールはパラスポーツではないかなと思います。

（委員）
　違うところに入れるか少しご検討いただければと思うのと、関係組織のところですが時々スポーツ推進委員が入っていますが重きをおいているところにいれてあるのか、あったりなかったりでここに入れる根拠がよくわからないのでもう少し精査していただきたいと思います。

（会長）
　他にいかがでしょうか。では他にないようですので皆さんにお諮りしたいのですが事務局の提案どおり、修正箇所は何か所かありますが基本的に提案どおりでさせていただいてよろしいでしょうか。

（委員）
　いや、アフターコロナのことは。

（事務局）
　６ページに委員さんがおっしゃっていただいたことに触れているところはありますが④の体力低下とストレスの増大というところですがそこで少し書いてありますが、避けては通れない問題ですので文面を少し考えさせていただきます。

（会長）
　ウィズコロナ、アフターコロナについて加筆していただくということでよろしいでしょうか。

（事務局）
　はい。課題は書いてあるので施策の方で加筆させていただきます。

（会長）
　それでは承認とさせていただきますがよろしいでしょうか。

（委員）
　異議なし。

（会長）
　ありがとうございました。それでは事項書３その他の項に入りたいと思います。何かございますか。

（委員）
　関係ないかもしれませんが教えてください。体育施設を利用させてもらっているのですが先日ぶんとから阿山の運動公園ですが使用後はグラウンドを直してもらわないと困る、そういう風に変わったのだと言われたのですがそれはみんなに伝達はされているのでしょうか。使用後のグラウンド直しは基本今までぶんとでしていただいていたのですが。

（事務局）
　レイキで直すとかそういうことではないのですか。

（委員）
　ある程度は直しますが、グラウンド整備は基本どちらがするのですか。使用している者は料金を支払って使用しているのに、ぶんとの人は中で話しているだけなのになぜグラウンド整備をしてくれないのか。まずグラウンドを均すのはどちらが正しいのですか。条例はあるのですか。

（事務局）
　条例まではないですが、基本的には使用後は利用者で真っ新にするまではできませんが、ある程度の原状復帰というのは利用者の方にお願いはしていると思います。一度、確認します。

（委員）
　雨で天候が悪く使用はしなかったのですが。

（事務局）
　他の指定管理者もいるのですが、基本は利用者の方で近い形で原状復帰していただいています。

（委員）
　昔は全部管理者がグラウンドを均してくれていたのですが。

（事務局）
　利用者に原状復帰いただいて、次の方が使用する前にさらにトラックで均したりするのは指定管理者がするべきことだと思います。

（委員）
　草が生えたのはどうですか。

（事務局）
　草は管理上の問題なので指定管理者です。

（委員）
　我々もグラウンドを使用させていただいたらグラウンドはレイキかけ、体育館はモップかけというのは基本でどの団体も使用後はそれぐらいしているかと。料金を支払っているからとかではなく使用したものの常識かとは思いますが。

（委員）
　その日は天候も悪く、芝のグラウンドは使用できないことはわかっていました。そうなるとどこが使用できるのか、土のグラウンドを借りたいとお願いしたら、お前らちゃんと直せるのかと言われたそうです。直せなかったら月曜日でも直しに来てもらうぞと言われたそうです。

（会長）
　グラウンドが復旧できない時は、貸出しされてるんですか。

（委員）
　芝のグラウンドは利用できないことはわかっています。公式戦だと中止というわけにはいかないですよ。

（委員）
　グラウンドはだいぶ広いですよね。

（委員）
　あれを全部きれいに均せと言われました。言われてもできないですよね。

（会長）
　完全に元通りにはできないかもしれませんが、ぐちゃぐちゃでは。

（委員）
　常識範囲では直して返していますよ。完全に元通りにして返せと言われたと言っています。
（委員）
　一番サッカーが困りますね。野球もですね。

（事務局）
　その日の当番の人の言い方とかもあったのかもしれませんので、もし言い方で不快な思いをしていただいたのであれば大変申し訳ございませんでした。一度確認してみます。

（委員）
　言い方ですが、ゲートボールもそうですが人によって違うのです。

（事務局）
　そうなのですね。

（委員）
　どの程度偉い人なのかわかりませんが。

（事務局）
　利用者の方からのお声ですのでお伝えさせていただきます。
　本日は慎重審議いただきありがとうございました。誤字・脱字もまだまだ精査するところもありますので、直させていただくとともに本日いただきましたご意見も踏まえ修正をさせていただきます。本日配布しましたスケジュールのことですが、本計画については来年の６月ごろには議会での成立を見込んでおります。それから逆算すると３月にはパブコメをかけたいと思っております。それに向け年明け早々１月１２日に次回審議会を予定させていただいております。お帰りの際に会議通知を配布しますので年始早々申し訳ございませんがご都合いただきたいと思います。以上です。

（会長）
　次回１月１２日の１４時からですので新年明けて早々ですがご都合よろしくお願いします。

（委員）
　委員任期はいつまででしょうか。

（事務局）
　委員の任期は令和４年８月３１日までです。

（会長）
　皆様方からその他ございませんか。よろしいでしょうか。それでは終わらせていただいてよろしいでしょうか。次回も年明け早々ですがよろしくお願いしたいと思います。ではありがとうございました。よいお年をお迎えください。

　了